



ぎよくせん じ
玉淀寺
(久居二ノ町)

近鉄久居駅から南へ500mほど進むと、天台真盛宗の寺院玉淀寺と、その西側に真宗高田派の妙華寺が並んでいる。いずれも藤堂家ゆかりの由緒ある寺院で、現在は市街の中にあつて緑豊かで閑静な一角を形成している。

玉淀寺は初め「玉泉寺」と言い、久居藩の菩提所として初代藩主・高通から境内地が与えられ、延宝7(1679)年に創建された。二代藩主・高堅の時に高虎の官名である「和泉守」に差し障るという理由で泉の字が改められて「玉淀寺」となり、境内地も増やされたようである。

文政4(1821)年、「文政の久居焼け」といわれる大火により焼失し、明治36(1903)年にも再び火災に見舞われており、現在の本堂は大正3(1914)年に再建されたものである。玉淀寺の境内にはかつて舟遊びもされたと伝えられる大きな池があり、この池水を使って消火が行われたといわれている。数度の災難にもかかわらず、玉淀寺には多数の文化財が伝えられている。武家の屋敷門の型式をとる山門をくぐると、右手に久居藩主(二代・三代)の墓所がある。本堂には二つの黒漆塗りの厨子があり、藩祖高通と二代高堅の木像が納められている。

また、通常は見るできないが、高虎の肖像画も伝えられている。広大な境内は地域の人々の手によってきれいに整備されており、静かな雰囲気の中で藤堂家との深いつながりがしのばれる。

(「広報津」平成21年8月1日号)

